

厚生労働科学研究費補助金
がん臨床研究事業

がん領域における薬剤のエビデンスの
確立を目的とした臨床研究

平成 19 年度 総括研究報告書

主任研究者 勝俣 範之

平成 20 (2008) 年 3 月

目次

I. 総括研究報告	
がん領域における薬剤のエビデンスの確立を目的とした臨床研究	-----1
勝俣 範之	
II. 研究成果の刊行に関する一覧表	-----5
III. 研究成果の刊行物・別刷	-----25
IV. (資料) 英文・和文プロトコル	-----56

厚生労働科学研究費補助金（がん臨床研究事業）
総括研究報告書

がん領域における薬剤のエビデンスの確立を目的とした臨床研究

主任研究者	勝俣範之	国立がんセンター中央病院 薬物療法部薬物療法室
分担研究者	波多江正紀	鹿児島市立病院 産婦人科
	藤原恵一	埼玉医科大学 婦人科、婦人科腫瘍科
	竹内 正弘	北里大学 薬学部臨床統計部門
	青木大輔	慶應義塾大学医学部 産婦人科学
	八重樫伸生	東北大学大学院医学系研究科 婦人科学分野
	紀川純三	鳥取大学医学部 生殖機能医学
	杉山徹	岩手医科大学医学部 産婦人科
	竹原和宏	独立行政法人国立病院機構呉医療センター・中国がんセンター婦人科
	日浦昌道	独立行政法人国立病院機構四国がんセンター婦人科
	竹内 聡	国立病院機構神戸医療センター 婦人科腫瘍学

研究要旨

本研究の目的は、進行上皮性卵巣癌、腹膜癌に対して、標準的化学療法（カルボプラチン/パクリタキセル）単独と比べて、化学療法+同時併用 Bevacizumab、化学療法+同時併用 Bevacizumab に引き続く Bevacizumab 単独維持投与の有用性を評価することであり、卵巣癌に対する Bevacizumab 投与のランダム化第三相試験としては、世界初の研究である。試験実施体制は、米国 NCI（National Cancer Institute）傘下の臨床試験グループである GOG（Gynecologic Oncology Group）のプロトコール（GOG218）へ、日本から国際共同・医師主導治験として参加する。

平成 19 年度の進捗状況としては、NCI-CTEP、厚生労働省監視指導・麻薬対策課と治験薬搬送手続きについての打ち合わせ、GOG218 プロトコール（英文）の和訳、説明同意文書（対訳版、意識版）、各種標準業務手順書の作成、企業からの治験薬概要書の提供、監査業務の委託契約、効果安全性評価委員会の設置・依頼、各施設での米国臨床試験に参加するための用件取得・書類提出、監査業務の委託契約、効果安全性評価委員会の業務委託契約、などの作業を 9 月までに終了、9-10 月の期間で、各施設にて、プロトコールの治験審査委員会への提出・承認を得た。平成 19 年 11 月 6 日独立行政法人医薬品医療機器総合機構へ治験届提出。現在、参加施設システム監査および各施設 Kick-off meeting 開始。平成 19 年度 12 月初旬、NCI からの治験薬の搬送テスト終了。安全に搬送可能であることを確認、各施設のシステム監査・Kick-off meeting 終了。12 月日第一例目登録。平成 20 年 2 月 27 日 3 例目登録。2 例目に Bevacizumab によると思われる重篤な有害事象（消化管穿孔）を認めた。今後も慎重に治験をすすめていく予定である。

A. 研究目的

本研究の目的は、進行上皮性卵巣癌、腹膜癌に対して、標準的化学療法（カルボプラチン/パクリタキセル）単独と比べて、化学療法+同時併用 Bevacizumab、化学療法+同時併用 Bevacizumab に引き続く Bevacizumab 単独維持投与の有用性を評価するものである。卵巣癌に対する Bevacizumab 投与のランダム化第三相試験としては、世界初の研究である。試験実施体制は、米国 NCI 傘下の公的臨床試験グループである GOG (Gynecologic Oncology Group) のプロトコール (GOG218) へ、日本から国際共同・医師主導治験として参加し、Bevacizumab の卵巣癌に関する日米同時承認取得を目指す。

B. 研究方法

[試験デザイン]多施設共同国際ランダム化第 III 相比較試験

[エンドポイント]プライマリーエンドポイント：全生存期間、セカンダリーエンドポイント：無増悪生存期間、腫瘍縮小効果、毒性、生活の質(QOL)、トランスレーショナル研究

[対象症例]

- 1) 組織学的に証明された上皮性卵巣癌、または、腹膜癌で、FIGO Stage IIIで残存腫瘍径が1cmを越える または、FIGO Stage IV
- 2) 以下の組織径を有する上皮性癌：漿液性腺癌、類内膜腺癌、粘液性腺癌、未分化癌、明細胞腺癌、混合型腺癌、移行上皮癌、悪性ブレンナー腫瘍、分類不能腺癌
- 3) Performance Status (PS) 0, 1, 2
- 4) 切除・診断・Staging目的の初回手術から12週以内であること
- 5) 測定可能病変は問わない
- 6) 臓器機能が保たれていること
- 7) 試験参加、かつ個人情報取得に関して、本人または代理人の署名付きの同意が得られていること

[治療方法]

Arm I (標準的化学療法群)

化学療法* (21日ごと、6 サイクル) + プラセボ** (21日ごと、2サイクル最初より開始し、5サイクル投与) に続いて、プラセボ** (21日ごと、16サイクル投与)

Arm II (同時併用Bevacizumab群)

化学療法 (21日ごと、6 サイクル) + Bevacizumab** (21日ごと、2サイクル最初より開始し、5サイクル投与) に続いて、プラセボ (21日ごと、16サイクル投与)

Arm III (同時併用+維持療法Bevacizumab群)

化学療法 (21日ごと、6 サイクル) + Bevacizumab (21日ごと、2サイクル最初より開始し、5サイクル投与) に続いて、Bevacizumab (21日ごと、16サイクル投与)

*化学療法：パクリタキセル 175mg/m² 静注3時間投与後、カルボプラチン AUC 6 静注30分投与 day1(注：ドセタキセル 75mg/m² 静注1時間投与をパクリタキセルの代用として可)

**Bevacizumab / プラセボ：15mg/kg静注 day 1

[登録予定症例数] 年間 650 例、3年間で合計 2000 例 (日米トータル)。

[研究期間] 3年間 (米国では2005年9月26日から登録が開始されている)

C. 結果

本研究に関して初年度(平成19年度)に実施した研究事業は以下の通りである。

- 1) 国際共同医師主導治験の実施に必要な文書(下記文書を作成した)
 - ・ GOG218プロトコール (英文) の和訳
 - ・ 説明同意文書 (対訳版、意識版)
 - ・ 標準業務手順書(13種類)

医師主導治験取り扱い規定、治験審査委員会、自ら治験を実施する者、モニタリン

グ、監査、被験者補償、治験薬取扱い、安全性情報取扱い、治験調整医師、効果・安全性評価委員会、治験薬概要書の作成、治験実施計画書の作成、説明同意文書の作成

2) 中外製薬株式会社からの治験薬概要書の提供

3) 中外製薬株式会社への監査業務の委託契約

4) 効果安全性評価委員会の設置・依頼

5) 治験実施に関する準備進捗状況

平成 19 年 5 月 17 日 米国 NCI (National Cancer Institute) 所属機関である CTEP (Cancer Therapy Evaluation Program)

Gynecologic Cancer Therapeutics and Quality of Cancer Care Therapeutics, Clinical Investigations Branch の Head である Edward L. Trimble, MD, MPH 氏来日。厚生労働省監視指導・麻薬対策課にて、治験薬の輸入の手続きについて協議。

6 月 中外製薬株式会社と覚書（機密保持・責務・データの所有権と取得方法など）締結

6 月 9 日 第 1 回班会議（プロトコール概要、医師主導治験実施手順、治験開始までのタイムスケジュール、治験審査委員会への提出資料、安全性情報の流れ、治験薬剤の搬入手続き、モニタリング、監査の方法について協議）

7 月 19-22 日 米国フィラデルフィアにて、GOG annual meeting に出席。GOG218、国際共同臨床試験の具体的な実施体制・作業について、日米韓の代表者が集い協議。

9 月 1 日 第 1 回実務担当者会議（参加施設の治験責任医師、治験事務担当者、治験担当 CRC、治験薬担当者、安全性情報担当者の出席の元、治験実施体制の確認、安全性情報のハンドリング、治験薬の管理、CRC 業務などの協議、倫理セミナー開催）

9 月 治験調整医師と各施設との治験調整

医師委嘱契約

各施設において、米国臨床試験に参加するための用件取得・書類提出（治験責任医師、治験分担医師の NCI investigator number の取得、施設倫理審査委員長・倫理担当官・患者相談担当窓口・CRC・安全性業務担当者の倫理セミナーの受講）

10 月 中外製薬株式会社と監査業務の委託契約、効果安全性評価委員会の業務委託契約

9-10 月 各施設にて、プロトコールの治験審査委員会への提出・承認

施設名	治験審査委員会承認日
埼玉医科大学国際医療センター	2007/9/12
独立行政法人国立病院機構呉医療センター・中国がんセンター	2007/9/14
独立行政法人国立病院機構四国がんセンター	2007/9/27
国立大学法人東北大学東北大学病院	2007/10/1
岩手医科大学附属病院	2007/10/2
鳥取大学医学部附属病院	2007/10/15
独立行政法人国立病院機構神戸医療センター	2007/10/17
鹿児島市立病院	2007/10/22
国立がんセンター中央病院	2007/10/23
慶應義塾大学病院	2007/10/29

11 月 6 日 独立行政法人医薬品医療機器総合機構へ治験届提出

11 月 15 日・参加施設システム監査および各施設 Kick-off meeting 開始。

11 月 20 日 登録可能となる。12 月初旬、NCI からの治験薬の搬送テスト終了。安全に搬送可能であることを確認、各施設のシステム監査・Kick-off meeting 終了。12 月 1 日第一例目登録。

平成 20 年 1 月 8 日第 2 例目登録。2 月 13 日第 2 例目の患者が消化管穿孔による腹腔内膿瘍を起こし入院。米国 NCI に重篤有害事象として報告。日本の効果安全性委員会評価委員会に報告。患者は保存的治療により回復。

平成 20 年 3 月 19 日現在 3 例登録。

D. 考察

進行卵巣癌の治療成績は依然として不良であり、さらなる治療成績向上が望まれている。現在開発中の新しい薬剤の中で、血管新生阻害剤である Bevacizumab は卵巣癌に最も期待がされている。Bevacizumab は、大腸癌、非小細胞性肺癌については米国等、世界各国で承認されているが、卵巣癌については患者数が少なく経営的な判断から企業主導の臨床試験は世界いずれにおいても実施されておらず、承認のある国は無い現状である。しかしながら既治療の治療抵抗性卵巣癌に対して Bevacizumab 単剤投与でも高い奏効率が得られていることから、その臨床導入は世界中から求められている。これまで再発・難治性卵巣癌に対して行われた Bevacizumab 単剤投与の第Ⅱ相試験は米国から二つ報告 (*ASCO2005 abst5009*, *ASCO2006 abst5006*) があり、奏効率 18% (11/62 人)、16% (7/44 人) と、Bevacizumab 単剤による奏効率は固形癌の中で最も高い。本研究は、卵巣癌に対する Bevacizumab 投与のランダム化第Ⅲ相比較試験として、米国国立がん研究所 (NCI)、米国食品医薬品管理局 (FDA) の指導を受け当初計画され、2005 年 9 月 26 日より米国 GOG により患者登録が開始されている。しかし当該研究は症例集積期間 3 年である目標症例数 2000 例にもかかわらず、2006 年 12 月の時点で、221 例の登録しか進んでおらず、GOG 国際メンバーである申請者らの試験参加が今般 NCI より求められたものである。なお、欧州でも多国籍共同臨床試験として、同様の大規模第Ⅲ相試験が現在計画されている。

本研究は医師主導治験で実施されるため、GCP 省令の遵守によりモニタリング、およ

び監査が行われ臨床試験の質が確保され、安全性情報も適切に収集・評価される。さらに、日米の Bevacizumab の卵巣癌に対する効能取得につながる可能性がある。さらに、医師主導治験初の国際共同試験であり、その実施を通じて現状の問題点を整理し、行政への貢献をはかることが可能と考えられる。

E. 結論

進行卵巣がんに対する Bevacizumab の有用性を検討するランダム化比較試験を国際共同医師主導治験として開始した。これまでに日本から 3 例登録。1 例に重篤な有害事象 (消化管穿孔) を認めた。今後も慎重に治験をすすめていく。

F. 健康危険情報

本研究に、現在までに 3 例が登録されているが、1 例に消化管穿孔による腹腔内膿瘍を引き起し、重篤な有害事象として報告がなされた。米国 NCI に重篤有害事象として報告。日本の効果安全性委員会評価委員会にも報告した。患者は保存的治療により回復している。Bevacizumab の重篤な有害事象として、消化管穿孔があり、本有害事象も治験薬である Bevacizumab に関連するものと考えられるが、パクリタキセル/カルボプラチンにも、消化管穿孔の有害事象の報告があり、関連性は否定できない。現在、患者の病状は改善傾向にあるが、十分な患者の全身状態の回復を図るよう、慎重な経過観察が必要である。Bevacizumab における本有害事象は卵巣癌患者において、最も注意すべき有害事象であり、本治験でも米国で、これまでに、10 例/511 例 (1.9%) の報告があり、2 例/511 例 (0.4%) の死亡報

告がある。今後も本治験をすすめていくにあたって、細心の注意を払い慎重に治験をすすめていく必要がある。

G. 研究発表

1. 論文発表

(主任研究者：勝俣範之)

1. Toshiro Mizuno, Noriyuki Katsumata, Hirofumi Mukai, Chikako Shimizu, Masashi Ando and Toru Watanabe
The outpatient management of low-risk febrile patients with neutropenia: risk assessment over the telephone Support Care Cancer. 2007, 15:287-291
2. Yonemori K, Katsumata N, Kaneko M, Uno H, Matsumoto K, Kouno T, Shimizu C, Ando M, Takeuchi M, Fujiwara Y.
Prediction of response to repeat utilization of anthracycline in recurrent breast cancer patients previously administered anthracycline-containing chemotherapeutic regimens as neoadjuvant or adjuvant chemotherapy. Breast Cancer Res Treat. 2006 Oct 25
3. Nishio S, Katsumata N, Tanabe H, Matsumoto K, Yonemori K, Kouno T, Shimizu C, Ando M, Fujiwara Y. [A Feasibility Study of Doxorubicin/Cisplatin (AP) for Postoperative Chemotherapy in Patients with Advanced Endometrial Cancer.] Gan To Kagaku Ryoho. 2006 Nov;33(11):1589-1593.
4. Mukai H, Watanabe T, Ando M, Katsumata N. An Alternative Medicine, Agaricus blazei, may have Induced Severe Hepatic Dysfunction in Cancer Patients. Jpn J Clin Oncol. 2006, 36(12)808-810
5. Yonemori K, Hasegawa T, Shimizu C, Shibata T, Matsumoto K, Kouno T, Ando M, Katsumata N, Fujiwara Y.
Correlation of p53 and MIB-1 expression with both the systemic recurrence and survival in cases of phyllodes tumors of the breast. Pathol Res Pract. 2006;202(10):705-12.
6. Park S, Shimizu C, Shimoyama T, Takeda M, Kinoshita T, Kohno T, Katsumata N, Kang YK, Nishio K, and Fujiwara Y. Gene expression profiling of ATP binding cassette (ABC) transporters as a predictor of the pathologic response to neoadjuvant chemotherapy in breast cancer patients. Breast Cancer Res. Treat 2006; 99: 9-17.
1. ○卵巣がん治療ガイドライン 評価委員 2007年版日本婦人科腫瘍学会/編 金原出版
2. 子宮体癌治療ガイドライン作成委員 2006年版日本婦人科腫瘍学会/編 金原出版
3. 片山博文、勝俣範之 「がん緩和医療化学療法」日本臨床65:1 98-102, 2007
4. 植原貴史、勝俣範之 「子宮頸がんヒトパピロウイルス」がん分子標的治療4(4)298-304, 2007
5. ○西尾真、勝俣範之 「臨床試験 (治験)

- よくわかる卵巣癌のすべて」永井書店
398-403, 2007
6. ○「がん診療レジデントマニュアル第4版」医学書院 2007年3月15日
 7. 橋本浩伸, 勝俣範之「がん薬物治療法におけるがん専門薬剤師と腫瘍内科医の連携について」くすりをつかうエビデンスをつかう 医学書院 p66-73、2007年
 8. 後藤悌, 勝俣範之「がん性浮腫の薬物療法」PTM治療マニュアル1(1)4月号 2007年
 9. ○小野麻紀子, 勝俣範之「再発卵巣癌に対する化学療法」産婦人科 専門医にきく最新の臨床326-328, 2007
 10. 新明裕子, 勝俣範之「乳がんの骨転移の特徴と治療」がん患者と対症療法 vol18, no.1 54-58, 2007
 11. ○斎藤文香, 勝俣範之「卵巣がん患者の治療をめぐる再発・転移例への対応は化学療法の進め方」臨床腫瘍プラクティス3(2)168-174, 2007
 12. 山本春風, 勝俣範之「外来化学療法の実際」産科と婦人科74(11)1464-1469, 2007
 13. 前田隆司, 勝俣範之「乳癌」内科 腫瘍内科診療データファイル 100(6)1275-1283, 2007
- (分担研究者:藤原恵一)
1. Noda K, Ohashi Y, Sugimori H, Ozaki M, Niibe H, Ogita S, Kohno I, Hasegawa K, Kikuchi Y, Takegawa Y, Fujii S, Tanaka K, Ochiai K, Kita M, Fujiwara K. Phase III double-blind randomized trial of radiation therapy for stage IIIb cervical cancer in combination with low- or high-dose Z-100: treatment with immunomodulator, more is not better. *Gynecol Oncol.*101:455-463, 2006.
 2. Nagao S, Fujiwara K, Ishikawa H, Oda T, Tanaka K, Aotani E, Kohno I. Hormonal function after ovarian transposition to the abdominal subcutaneous fat tissue. *Int J Gynecol Cancer.*6:121-124, 2006
 3. Noda K, Ohashi Y, Okada H, Ogita S, Ozaki M, Kikuchi Y, Takegawa Y, Niibe H, Fujii S, Horiuchi J, Morita K, Hashimoto S, Fujiwara K. Randomized Phase II Study of Immunomodulator Z-100 in Patients with Stage IIIB Cervical Cancer with Radiation Therapy. *Jpn J Clin Oncol.*36:570-577, 2006.
 4. Nagao S, Fujiwara K, Kagawa R, Kozuka Y, Oda T, Maehata K, Ishikawa H, Koike H, Kohno I. Feasibility of extraperitoneal laparoscopic para-aortic and common iliac lymphadenectomy. *Gynecol Oncol.*103:732-735, 2006.
 5. ○ Fujiwara K, Armstrong D, Morgan M, Markman M. Principles and practice of intraperitoneal chemotherapy for ovarian cancer. *Review Int J Gynecol Cancer.*17:1-20, 2007.
 6. 藤原恵一, 河野一郎:再発腫瘍に対する治療 産と婦, 73:370-374, 2006
 7. 藤原恵一, 長尾昌二:卵巣癌に対する腹腔内化学療法の再評価。産と婦, 73:1091-1097, 2006.

8. ○藤原恵一, 長尾昌二, 清水基弘 【卵巢がん患者の治療をめぐる】新しい薬剤の開発とその展望 臨床腫瘍プラクティス (1880-3083)3 巻 2 号 Page178-182(2007.05)
 9. ○藤原恵一, 清水基弘, 長尾昌二, 後藤友子, 菊池真理子, 伊藤百合子, 三木明德 【婦人科がんに対する新しい治療法の導入】分子標的治療の最新情報と展望 産婦人科の実際 (0558-4728)56 巻 4 号 Page539-545(2007.04)
 10. 藤原恵一, 清水基弘, 後藤友子, 三木明德, 長尾昌二 【女性外来診療マニュアル】症状・症候から診断・治療へ 婦人科編 外陰・腔腫瘍、類腫：産婦人科治療 (0558-471X)94 巻増刊 Page686-692(2007.04)
 11. 長尾昌二, 藤原恵一, 清水基弘 【婦人科手術と QOL】 卵巣癌に対する妊孕性保存手術。産婦人科治療(0558-471X)94 巻 3 号 Page299-304(2007.03)
- (分担研究者:竹内正弘)
1. Kan Yonemori, Umio Yamaguchi, Masayuki Kaneko, Hajime Uno, Masahiro Takeuchi, Masashi Ando, Yasuhiro Fujiwara, Ako Hosono, Atsushi Makimono, Tadashi Hasegawa, Ryouhei Yokoyama, Fumihiko Nakatani, Akira Kawai, Yasuo Beppu, Hirokazu Chuman. Prediction of response and prognostic factors for Ewing family of tumors in a low incidence population. Journal of Cancer Research and Clinical Oncology. (In Press)
 2. 抗癌剤開発臨床試験への JACCRO の取り組み-FLADS(Flexivle license assisted data server)system による support-
 3. 中島聰總、山口俊晴、藤井雅志、島田安博、福井 巖、曾根三郎、鶴尾 隆、竹内正弘、小川一誠、青柳 宏. 外科治療 2007; 97(5): 517-523.
 4. 出清和、武井利充、高橋正史、西村洋一郎、五十嵐憲二、竹内正弘. 内治験のパフォーマンスとコストに関する調査 臨床評価 2007; 35(1): 69-84.
 5. Yonemori K, Katsumata N, Kaneko M, Uno H, Matsumoto K, Kouno T, Shimizu C, Ando M, Takeushi M, Fujiwara Y. Prediction of response to repeat utilization of anthracyline in recurrent Breast cancer patient s previously administered anthracyline-containing chemotherapeutic regimens as neoadjuvant or adjuvant chemotherapy. Breast Cancer Research and Treatment. 2007; 103(3): 313-318.
 6. Yoshiharu Horie, Jitsuo Higaki, Masahiro Takeuchi. Comtemporary Clinical Trials.Design, statistical analysis and sample size calculation of dose response study of telmisartan and hydrochlorothiazide. 2007; 28:647-653.
 7. Hirofumi Makino, Yasuhiro Iwamoto, Masakazu Haneda, Ryoza Kawamori, Tetsuya Babazono, Masahiro Takeuchi, Tatsumi Moriya, Shigehiro Katayama, Sadayoshi Ito.Prevention of Transition

- from Incipient to Overt Nephropathy with Telmisartan in Patients with Type 2 Diabetes. *Diabetes Care*. 2007; 30(6): 1577-1578
8. 乳癌とホルモン補充療法についてのケース・コントロール研究 伯俊昭、竹内正弘、本庄英雄、落合和徳、小林 直、佐野宗明、佐藤信昭、園尾博司、菰池佳史、青儀健二郎、高嶋成光. *日本更年期医学会雑誌* 2007;15(1): 110-112
 9. 「乳癌リスクからみたホルモン補充療法の治療指針」佐伯俊昭、本庄英雄 編集. 金原出版 2007. 分担表題: 乳癌の危険因子(竹内正弘、菅野弘美)
- (分担研究者: 青木大輔)
1. Yanokura M, Banno K, Kawaguchi M, Hirao N, Hirasawa A, Susumu N, Tsukazaki K, Aoki D: Relationship of aberrant DNA hypermethylation of *CHFR* with sensitivity to taxanes in endometrial cancer. *Oncol. Rep.*, 2007, 17(1): 41-48
 2. Higashiguchi A, Yamada T, Susumu N, Mori T, Suzuki A, Aoki D, Sakamoto M: Specific expression of hepatocyte nuclear factor-1 β in the ovarian clear cell adenocarcinoma and its application to cytological diagnosis. *Cancer Sci.*, 2007, 98 (3): 387-391
 3. Yamagami W, Banno K, Kawaguchi M, Yanokura M, Kuwabara Y, Hirao N, Susumu N, Tsukazaki K, Aoki D: Use of the collagen gel droplet embedded drug sensitivity test to determine drug sensitivity against ovarian mature cystic teratoma with malignant transformation to adenocarcinoma: A case report. *Chemotherapy*, 2007, 53(2): 137-141
 4. Komiyama S, Aoki D, Komiyama M, Nozawa S: Local activation of TGF-beta 1 at endometriosis sites. *J. Reprod. Med.*, 2007, 52(4): 306-312
 5. Watanabe Y, Aoki D, Kitagawa R, Takeuchi S, Sagae S, Sakuragi N, Yaegashi N, Disease Committee of Uterine Endometrial Cancer, Japanese Gynecologic Oncology Group: Status of surgical treatment procedures for endometrial cancer in Japan: Results of a Japanese Gynecologic Oncology Group Survey. *Gynecol Oncol.*, 2007, 105(2): 325-328
 6. Nomura H, Tamada Y, Miyagi T, Suzuki A, Taira M, Suzuki N, Susumu N, Irimura T, Aoki D: Expression of NEU3 (plasma membrane-associated sialidase) in clear cell adenocarcinoma of the ovary: its relationship with T factor of pTNM classification. *Oncol. Res.*, 2007, 16(6): 289-297
 7. Tamada Y, Takeuchi H, Suzuki N, Susumu N, Aoki D, Irimura T: Biological and therapeutic significance of MUC1 with sialoglycans in clear cell adenocarcinoma of the ovary. *Cancer Sci.*, 2007, 98(10): 1586-1591
 8. Banno K, Yanokura M, Kawaguchi M, Kuwabara Y, Akiyoshi J, Kobayashi Y, Iwata T, Hirasawa A, Fujii T, Susumu N, Tsukazaki K, Aoki D: Epigenetic inactivation of the *CHFR* gene in

- cervical cancer contributes to sensitivity to taxanes. *Int. J. Oncol.*, 2007, 31(4): 713-720
9. Suzuki N, Aoki D, Orikawa K, Suzuki A, Susumu N, Tamada Y, Sakayori M, Tsukazaki K, Mukai M, Kikuchi H, Ishida I, Nozawa S: 8-1A, a human monoclonal antibody that reacts with intact human chorionic gonadotropin. *Placenta*, 2006, 27(2-3): 333-339
 10. Kanasugi M, Aoki D, Suzuki N, Susumu N, Nakata S, Horiuchi M, Udagawa Y, Nozawa S: Sensitivity to cisplatin determined by the histoculture drug response assay and clinical response of endometrial cancer. *Int. J. Gynecol. Cancer*, 2006, 16(1): 409-415
 11. Yanokura M, Banno K, Susumu N, Kawaguchi M, Kuwabara Y, Tsukazaki K, Aoki D: Hypermethylation in the p16 promoter region in the carcinogenesis of endometrial cancer in Japanese patients. *Anticancer Res.*, 2006, 26(2A): 851-856
 12. Nomura H, Aoki D, Suzuki N, Susumu N, Suzuki A, Tamada Y, Kataoka F, Higashiguchi A, Ezawa S, Nozawa S: Analysis of clinicopathologic factors predicting para-aortic lymph node metastasis in endometrial cancer. *Int. J. Gynecol. Cancer*, 2006, 16(2): 799-804
 13. Onodera N, Tamaki T, Okada Y, Akatsuka A, Aoki D: Identification of tissue-specific vasculogenic cells originating from murine uterus. *Histochem. Cell Biol.*, 2006, 125(6): 625-635
 14. Sakurai N, Miki Y, Suzuki T, Watanabe K, Narita T, Ando K, Yung TM, Aoki D, Sasano H, Handa H: Systemic distribution and tissue localizations of human 17beta-hydroxysteroid dehydrogenase type 12. *J. Steroid. Biochem. Mol. Biol.* 2006, 99(4-5): 174-181
 15. Okomiyama S, Aoki D, Katsuki Y, Nozawa S: Proliferative activity of early ovarian clear cell adenocarcinoma depends on association with endometriosis. *Eur. J. Obstet. Gynecol. Reprod. Biol.*, 2006, 127(1): 130-136
 16. Fujii T, Saito M, Iwasaki E, Ochiya T, Takei Y, Hayashi S, Ono A, Hirao N, Nakamura M, Kubushiro K, Tsukazaki K, Aoki D: Intratumor injection of small interfering RNA-targeting human papillomavirus 18 E6 and E7 successfully inhibits the growth of cervical cancer. *Int. J. Oncol.*, 29(3): 541-548, 2006
 17. Banno K, Yanokura M, Susumu N, Kawaguchi M, Hirao N, Hirasawa A, Tsukazaki K, Aoki D: Relationship of the aberrant DNA hypermethylation of cancer-related genes with carcinogenesis of endometrial cancer. *Oncol. Rep.* 2006, 16(6): 1189-1196
- (分担研究者: 八重樫伸生)
1. ○ Utsunomiya, H., Akahira, J.,

- Tanno, S., Moriya, T., Toyoshima, M., Niikura, H., Ito, K., Morimura, Y., Watanabe, Y., Yaegashi, N.; Paclitaxel-platinum combination chemotherapy for advanced or recurrent ovarian clear cell adenocarcinoma: A multicenter trial. *International Journal of Gynecologic Cancer* 16, 52-56 (2006).
2. Okamura, C., Tsubono, Y., Ito, K., Niikura, H., Takano, T., Nagase, S., Yoshinaga, K., Terada, Y., Murakami, T., Sato, S., Aoki, D., Jobo, T., Okamura, K., Yaegashi, N.; Lactation and risk of endometrial cancer in Japan: A case-control study. *Tohoku Journal of Experimental Medicine* 208, 109-115 (2006).
 3. Ito, K., Utsunomiya, H., Suzuki, T., Saitou, S., Akahira, JI., Okamura, K., Yaegashi, N., Sasano, H.; 17 β -hydroxysteroid dehydrogenases in human endometrium and its disorders. *Molecular and Cellular Endocrinology* 248, 136-140 (2006).
 4. Ozawa, Y., Murakami, T., Terada, Y., Yaegashi, N., Okamura, K., Kuriyama, S., Tsuji, I.; Management of the pain associated with endometriosis: An update of the painful problems. *Tohoku Journal of Experimental Medicine* 210, 175-188 (2006).
 5. O Yamaguchi, H., Hishinuma, T., Endo, N., Tsukamoto, H., Kishikawa, Y., Sato, M., Murai, Y., Hiratsuka, M., Ito, K., Okamura, C., Yaegashi, N., Suzuki, N., & Tomioka, Y., Goto, J.; Genetic variation in ABCB1 influences paclitaxel pharmacokinetics in Japanese patients with ovarian cancer. *International Journal of Gynecologic Cancer* 16, 979-985 (2006).
 6. Niikura, H., Yoshida, H., Ito, K., Takano, T., Watanabe, H., Aiba, S., Yaegashi N.; Paget's disease of the vulva: Clinicopathologic study of type 1 cases treated at a single institution. *International Journal of Gynecologic Cancer* 16, 1212-1215 (2006).
 7. Chisaka, H., Ito, K., Niikura, H., Sugawara, J., Takano, T., Murakami, T., Terada, Y., Okamura, K., Shiraishi, H., Sugamura, K., Yaegashi, N.; Clinical manifestations and outcomes in parvovirus B19 infection during pregnancy in Japan. *Tohoku Journal of Experimental Medicine* 209, 277-284 (2006).
 8. Takano, M., Kikuchi, Y., Yaegashi, N., Kuzuya, K., Ueki, M., Tsuda, H., Suzuki, M., Kigawa, J., Takeuchi, S., Tsuda, H., Moriya, T., Sugiyama, T.; Clear cell carcinoma of the ovary: A retrospective multicentre experience of 254 patients with complete surgical staging. *British Journal of Cancer* 94, 1369-1374 (2006).

9. Yokoyama, Y., Moriya, T., Takano, T., Shoji, T., Takahashi, O., Nakahara, K., Yamada, H., Yaegashi, N., Okamura, K., Izutsu, T., Sugiyama, T., Tanaka, T., Kurachi, H. Sato, A., Tase, T., Mizunuma, H.; Clinical outcome and risk factors for recurrence in borderline ovarian tumours. *British Journal of Cancer* 94, 1586-1591 (2006).
10. Ota, K., Ito, K., Suzuki, T., Saito, S., Tamura, M., Hayashi, S., Okamura, K., Sasano, H., Yaegashi, N.; Peroxisome proliferator-activated receptor γ and growth inhibition by its ligands in uterine endometrial carcinoma. *Clinical Cancer Research* 12, 4200-4208 (2006).
11. Nakamura, S., Terada, Y., Murakami, T., Tachibana, M., Yaegashi, N., Okamura, K.; Pregnancy in a patient with retroperitoneal fibrosis who underwent in vitro fertilization. *Nephrology Dialysis Transplantation* 21, 2669 (2006).
12. Hayasaka, S., Terada, Y., Morita, J., Tachibana, M., Shima-Morito, Y., Kakoi-Yoshimoto, T., Nakamura, S., Murakami, T., Yaegashi, N., Okamura, K.; Post-ICSI cytoskeletal dynamics during fertilization. *Journal of Mammalian Ovarian Research* 23, 21-26 (2006).
13. Saito, S., Ito, K., Nagase, S., Suzuki, T., Akahira, J., Okamura, K., Yaegashi, N., Sasano, H.; Progesterone receptor isoforms as a prognostic marker in human endometrial carcinoma. *Cancer Science* 97, 1308-1314 (2006).
14. Takano, M., Kikuchi, Y., Yaegashi, N., Suzuki, M., Tsuda, H., Sagae, S., Udagawa, Y., Kuzuya, K., Kigawa, J., Takeuchi, S., Tsuda, H., Moriya, T., Sugiyama, T.; Adjuvant chemotherapy with irinotecan hydrochloride and cisplatin for clear cell carcinoma of the ovary. *Oncology Report* 16, 1301-1306 (2006).
15. Ozawa, Y., Murakami, T., Tamura, M., Terada, Y., Yaegashi, N., Okamura, K.; A selective cyclooxygenase-2 inhibitor suppresses the growth of endometriosis xenografts via antiangiogenic activity in severe combined immunodeficiency mice. *Fertility and Sterility* 86, 1146-1151 (2006).
16. Sato, N., Ito, K., Onogawa, T., Akahira, J., Unno, M., Abe, T., Niikura, H., Yaegashi, N.; Expression of organic cation transporter SLC22A16 in human endometria. *International Journal of Gynecologic Pathology* 26, 53-60 (2006).
17. Akahira, J., Tokunaga, H., Toyoshima, M., Takano, T., Nagase, S., Yoshinaga, K., Tase, T., Wada, Y., Ito, K., Niikura, H., Yamada, H., Sato, A., Sasano, H., Yaegashi, N.; Prognoses and prognostic factors of carcinosarcoma, endometrial stromal sarcoma, and uterine

- leiomyomasarcoma: A comparison with uterine endometrial adenocarcinoma. *Oncology* 71, 333-340 (2006).
18. Tachibana, M., Murakami, T., Utsunomiya, H., Terada, Y., Yaegashi, N., Okamura, K.; Clinical pitfalls of pain recurrence in endometriosis arising in the posteriorvaginal fornix. *Journal of Obstetrics and Gynaecologic Research* 33, 207-10 (2006).
 19. Yoshinaga, K., Niikura, H., Ogawa, Y., Nemoto, K., Nagase, S., Takano, T., Terada, Y., Murakami, T., Ito, K., Okamura, K. and Yaegashi, N.; Phase I trial of concurrent chemoradiation with weekly nedaplatin in patients with squamous cellcarcinoma of the uterine cervix. *Gynecologic Oncology* 104, 36-40 (2007).
 20. Suzuki-Kakisaka, H., Murakami, T., Hirano, T., Terada, Y., Yaegashi, N., Okamura, K.; Effects of photodynamic therapy using 5-aminolevulinic acid on cultured human adenomyosis-derived cells *Fertility & Sterility* 87, 33-38 (2007).
 21. Hagiwara, Y, Hatori, M., Moriya, T., Terada, Y., Yaegashi, N., Ehara, S., Kokubun, S.; Inguinal endometriosis attaching to the round ligament. *Australas Radiol.* 51, 91-94 (2007).
 22. O Sakuma, M., Akahira, J., Ito, K., Niikura, H., Moriya, T., Okamura, K., Sasano, H., Yaegashi, N.; Promoter methylation status of the Cyclin D2 gene is associated with poor prognosis in human epithelial ovarian cancer. *Cancer Science* 98, 380-6 (2007).
 23. Tokunaga, H., Akahira, J., Suzuki, T., Moriya, T., Sasano, H., Ito, K., Yaegashi, N.; Estrogen-producing epithelial cancer of the ovary. Case report. *Pathology International* 57, 285-290 (2007).
 24. Niikura, H., Okamoto, S., Yoshinaga, K., Nagase, S., Takano, T., Ito, K., Yaegashi, N.; Detection of micrometastases in the sentinel lymph nodes of patients with endometrial cancer. *Gynecologic Oncology* 105, 683-686 (2007).
 25. Toyoshima, M., Tanaka, N., Aoki, J., Tanaka, Y., Murata, K., Kyuuma, M., Kobayashi, H., Ishii N., Yaegashi, N., Sugamura K.; Inhibition of Tumor Growth and Metastasis by depletion of Hrs, a Key Regulator of Monoubiquitinated Protein Sorting: Hrs-mediated Regulation of E-cadherin and β -catenin. *Cancer Research* 67, 5162-71 (2007).
 26. Watanabe, Y., Aoki, D., Kitagawa, R., Takeuchi, S., Sagae, S., Sakuragi, N., Yaegashi, N.; Status of surgical treatment procedures for endometrial cancer in Japan: Results of Japanese Gynecologic Oncology Group Survey. *Gynecologic Oncology* 105, 325-328 (2007).
 27. Yaegashi, N., Ito, K., Niikura, H.;

- Lymphadenectomy for endometrial cancer: is paraaortic lymphadenectomy necessary? International Journal of Clinical Oncology 12, 176-180 (2007).
28. Oota, K., Ito, K., Akahira, JI., Sato, N., Onogawa, T., Moriya, T., Unno, M., Abe, T., Niikura, H., Takano, T., Yaegashi, N.; Expression of Organic Cation Transporter SLC22A16 in Human Epithelial Ovarian Cancer -A Possible Role of Adriamycin Importer. International Journal of Gynecologic Pathology 26, 334-340 (2007).
 29. Ushijima, K., Yahata, H., Yoshikawa, H., Konishi, I., Yasugi, T., Saito, T., Nakanishi, T., Sasaki, H., Saji, F., Iwasaka, T., Hatae, M., Kodama, S., Saito, T., Terakawa, N., Yaegashi, N., Hiura, M., Sakamoto, A., Tsuda, H., Fukunaga, M., Kamura, T.; Fertility-Sparing Treatment with Medroxyprogesterone Acetate for Endometrial Carcinoma and Atypical Hyperplasia in Young Women: A Multicenter Phase II Study. Journal of Clinical Oncology 25, 2798-803 (2007).
 30. Hayashi, S., Suzuki, T., Ito, K., Matsumoto, M., Sasano, H., Yaegashi, N.; Biosynthesis and action of estrogen in gynecological cancers. Reproductive Oncology 93, 93-120 (2007).
 31. Onishimura, S., Tsuda, H., Ito, K., Jobo, T., Yaegashi, N., Inoue, T., Sudo, T., Berkowitz, RS., Mok, SC.; Differential expression of ABCF2 protein among different histologic types of epithelial ovarian cancer and in clear cell adenocarcinomas of different organs. Human Pathology 38, 134-139 (2007).
 32. Nagase, S., Mikami, Y., Moriya, T., Niikura, H., Yoshinaga, K., Takano, T., Ito, K., Akahira, J., Sasano, H., Yaegashi, N.; Vaginal tumors with histological and immunocytochemical feature of GIST: two cases and review of the literature. International Journal of Gynecologic Cancer 17, 928-33. (2007).
 33. Niikura, H., Katahira, A., Utsunomiya, H., Takano, T., Ito, K., Nagase, S., Yoshinaga, K., Tokunaga, H., Toyoshima, M., Uchiyama, E., Kinugasa, Y., Murakami, G., Yabuki, Y., Yaegashi, N.; Surgical anatomy of intrapelvic fasciae and Vesico-Uterine Ligament in Nerve-Sparing Radical Hysterectomy with fresh cadaver dissections. Tohoku Journal of Experimental Medicine 212, 403-413 (2007).
 34. Takano, M., Sugiyama, T., Yaegashi, N., Suzuki, M., Tsuda, H., Sagae, S., Udagawa, Y., Kuzuya, K., Kigawa, J., Takeuchi, S., Tsuda, H., Moriya, T., Kikuchi, Y.; Progression-free survival and overall survival of patients with clear cell carcinoma

- of the ovary treated with paclitaxel-carboplatin or irinotecan-cisplatin: retrospective analysis. *International Journal of Clinical Oncology* 12, 256-60. (2007).
35. Fujimoto, T., Nanjyo, H., Nakamura, A., Yokoyama, Y., Takano, T., Shoji, T., Nakahara, K., Yamada, H., Mizunuma, H., Yaegashi, N., Sugiyama, T., Kurachi, H., Sato, A., Tanaka, T.; Para-aortic lymphadenectomy may improve disease-related survival in patients with multipositive pelvic lymph node stage IIIc endometrial cancer. *Gynecologic Oncology* 107, 253-9 (2007).
36. Kobayashi, H., Sato, A., Otsu, E., Hiura, H., Tomatsu, C., Utsunomiya, T., Sasaki, H., Yaegashi, N., Arima, T.; Aberrant DNA methylation of imprinted loci in sperm from oligospermic patients. *Human Molecular Genetics* 16, 2542-51. (2007).
37. Okahira, J., Suzuki, F., Suzuki, T., Miura, I., Kamogawa, N., Miki, Y., Ito, K., Yaegashi, N., Sasano, H.; Decreased expression of RIZ1 and its clinicopathological significance in epithelial ovarian carcinoma: Correlation with epigenetic inactivation by aberrant DNA methylation. *Pathology International* 57, 725-733 (2007).
38. Ito, K., Utsunomiya, H., Yaegashi, N. & Sasano, H.; Biological Roles of Estrogen and Progesterone in Human Endometrial Carcinoma - New Developments in Potential Endocrine Therapy for Endometrial Cancer. *Endocr J* (2007).
39. Hayasaka, S., Terada, Y., Inoue, N., Okabe, M., Yaegashi, N., Okamura, K.; Positive expression of the immunoglobulin superfamily protein IZUMO on human sperm of severely infertile male patients. *Fertil Steril* 88, 214-6 (2007).
40. Tanabe, K., Utsunomiya, H., Tamura, M., Niikura, H., Takano, T., Yoshinaga, K., Nagase, S., Suzuki, T., Ito, K., Matsumoto, M., Hayashi, S., Yaegashi, N.; The expression of retinoic acid receptors in human endometrial cancer. *Cancer Science* (2007). In press
41. Koizumi, T, Nakaya, N., Okamura, C., Sato, Y., Shimazu, T., Nagase, S., Niikura, H., Kuriyama, S., Tase, T., Ito, K., Tsubono, Y., Okamura, K., & Yaegashi, N., Tsuji, I.; Case-control Study of Coffee Consumption and the Risk of Endometrial Endometrioid Adenocarcinoma. *European Journal of Cancer Prevention* (2007). In press
42. Katahira, A., Niikura, H., Takano, T., Ito, K., Murakami, G., Yaegashi, N.; Vesicouterine ligament contains abundant autonomic nerve ganglion cells: the distribution in histology concerning nerve-sparing

radical hysterectomy. *Int J Gynecol Cancer* (2007). In press

(分担研究者: 紀川純三)

1. Fujii S, Matsusue E, Kigawa J, Sato S, Kanasaki Y, Nakanishi J, Sugihara S, Kaminou T, Terakawa N, Ogawa T. Diagnostic accuracy of the apparent diffusion coefficient in differentiating benign from malignant uterine endometrial cavity lesions: initial results. *Eur Radiol*. 2007 Oct 5;
2. Okawaguchi W, Itamochi H, Kigawa J, Kanamori Y, Oishi T, Shimada M, Sato S, Shimogai R, Sato S, Terakawa N. Simultaneous inhibition of the mitogen-activated protein kinase kinase and phosphatidylinositol 3'-kinase pathways enhances sensitivity to paclitaxel in Ovarian carcinoma. *Cancer Sci*. 2007 Dec;98(12):2002-8.
3. Fujii S, Matsusue E, Kanasaki Y, Kanamori Y, Nakanishi J, Sugihara S, Kigawa J, Terakawa N, Ogawa T. Detection of peritoneal dissemination in gynecological malignancy: evaluation by diffusion-weighted MR imaging. *Eur Radiol*. 2007 Aug 14
4. Takano M, Sugiyama T, Yaegashi N, Suzuki M, Tsuda H, Sagae S, Udagawa Y, Uzuya K, Kigawa J, Takeuchi S, Tsuda H, Moriya T, Kikuchi Y. Progression-free survival and overall survival of patients with clear cell carcinoma of the ovary treated with paclitaxel-carboplatin or irinotecan-cisplatin: retrospective analysis. *Int J Clin Oncol*. 2007 Aug;12(4):256-60.
5. Oishi T, Itamochi H, Kigawa J, Kanamori Y, Shimada M, Takahashi M, Shimogai R, Awaguchi W, Sato S, Terakawa N. Galectin-3 may contribute to Cisplatin resistance in clear cell carcinoma of the ovary. *Int J Gynecol Cancer*. 2007 Sep-Oct;17(5):1040-6.
6. Shimada M, Kigawa J, Terakawa N, Yoshizaki A, Shoji T, Suzuki M, Hatae M, Suda H, Ohwada M, Sugiyama T. Phase I trial of paclitaxel, doxorubicin, and carboplatin (TAC) for the treatment of endometrial cancer. *Int J Gynecol Cancer*. 2007 Jan-Feb;17(1):210-4.
7. Naniwa J, Kigawa J, Kanamori Y, Itamochi H, Oishi T, Shimada M, Shimogai R, Awaguchi W, Sato S, Terakawa N. Genetic diagnosis for chemosensitivity with drug-resistance genes in epithelial ovarian cancer. *Int J Gynecol Cancer*. 2007 Jan-Feb;17(1):76-82.
8. Miura N, Kanamori Y, Takahashi M, Sato R, Tsukamoto T, Takahashi S, Harada T, Sano A, Shomori K, Harada T, Kigawa J, Ito H, Terakawa N, Hasegawa J, Shiota G. A diagnostic evaluation of serum human telomerase reverse transcriptase mRNA as a novel tumor marker for gynecologic malignancies. *Oncol Rep*.

- 2007 Mar;17(3):541-8.
9. ○Itamochi H, Kigawa J, Kanamori Y, Oishi T, Bartholomeusz C, Nahta R, Esteve FJ, Sneige N, Terakawa N, Ueno NT. denovirus type 5 E1A gene therapy for ovarian clear cell carcinoma: a potential treatment strategy. *Mol Cancer Ther.* 2007 Jan;6(1):227-35.
 10. ○Takano M, Kikuchi Y, Yaegashi N, Suzuki M, Tsuda H, Sagae S, Udagawa Y, Kuzuya K, Kigawa J, Takeuchi S, Tsuda H, Moriya T, Sugiyama T. Adjuvant chemotherapy with irinotecan hydrochloride and cisplatin for clear cell carcinoma of the ovary. *Oncol Rep.* 2006 Dec;16(6):1301-6.
 11. ○Takano M, Kikuchi Y, Yaegashi N, Kuzuya K, Ueki M, Tsuda H, Suzuki M, Kigawa J, Takeuchi S, Tsuda H, Moriya T, Sugiyama T. Clear cell carcinoma of the ovary: a retrospective multicentre experience of 254 patients with complete surgical staging. *Br J Cancer.* 2006 May 22;94(10):1369-74.
 12. ○Komatsu M, Hiyama K, Tanimoto K, Yunokawa M, Otani K, Ohtaki M, Hiyama E, Kigawa J, Ohwada M, Suzuki M, Nagai N, Kudo Y, Nishiyama M. Prediction of individual response to platinum/paclitaxel combination using novel marker genes in ovarian cancers. *Mol Cancer Ther.* 2006 Mar;5(3):767-75.
 13. ○Minagawa Y, Kigawa J, Kanamori Y, Itamochi H, Terakawa N, Okada M, Kitada F. Feasibility study comparing docetaxel-cisplatin versus docetaxel-carboplatin as first-line chemotherapy for ovarian cancer. *Gynecol Oncol.* 2006 Jun;101(3):495-8.
 14. Shimada M, Kigawa J, Nishimura R, Yamaguchi S, Kuzuya K, Nakanishi T, Suzuki M, Kita T, Iwasaka T, Terakawa N. Ovarian metastasis in carcinoma of the uterine cervix. *Gynecol Oncol.* 2006 May;101(2):234-7.
 15. Uegaki K, Kanamori Y, Kigawa J, Kawaguchi W, Kaneko R, Naniwa J, Takahashi M, Shimada M, Oishi T, Itamochi H, Terakawa N. PTEN is involved in the signal transduction pathway of contact inhibition in endometrial cells. *Cell Tissue Res.* 2006 Mar;323(3):523-8. Epub 2005 Nov 8.
- (分担研究者: 杉山徹)
1. Izutsu T, Izutsu N, Iwane A, Takada A, Nagasawa T, Kanasugi T, Sugiyama T. Expression of human telomerase reverse transcriptase and correlation with telomerase activity in placentas with and without intrauterine growth retardation. *Acta Obstetrica et Gynecologica*, 2006; 85: 3-11.
 2. Sugiyama T. Is paclitaxel/carboplatin really a useful regimen for ovarian cancer compared with platinum/doxorubicin/cyclophosphamide? *Int J Clin Oncol* 2006;11: 163.
 3. ○Takano M, Kikuchi Y, Yaegashi N,

- Kuzuya K, Ueki M, Tsuda H, Suzuki M, Kigawa J, Takeuchi S, Tsuda H, Moriya T, Sugiyama T. Clear cell carcinoma of the ovary: a retrospective multicenter experience of 254 patients with complete surgical staging. *British J Cancer* 2006; 94: 1369-1374.
4. ○Yokoyama Y, Moriya T, Takano T, Shoji T, Takahashi O, Nakahara K, Yamada H, Yaegashi N, Okamura K, Izutsu T, Sugiyama T, Tanaka T, Kurachi H, Sato A, Tase T, Mizunuma H. Clinical outcome and risk factors for recurrence in borderline ovarian tumors. *British J Cancer* 2006;94: 1586-1591.
 5. ○Takano M, Kikuchi Y, Yaegashi N, Suzuki M, Tsuda H, Sagae S, Udagawa Y, Kuzuya K, Kigawa J, Takeuchi S, Tsuda H, Moriya T, Sugiyama T. Adjuvant chemotherapy with irinotecan hydrochloride and cisplatin for clear cell carcinoma of the ovary. *Oncol Rep* 2006;16:1301-1306.
 6. ○Takano M, Sugiyama T, Yaegashi N, Suzuki M, Tsuda H, Sagae S, Udagawa Y, Kuzuya K, Kigawa J, Takeuchi S, Tsuda H, Moriya T, Kikuchi Y. Progression-free survival and overall survival of patients with clear cell carcinoma of the ovary treated with paclitaxel-carboplatin or irinotecan-cisplatin: retrospective analysis. *Int J Clin Oncol* 2007;12: 256-260.
 7. ○Nishio S, Sugiyama T, Shouji T, Yoshizaki A, Kitagawa R, Ushijima K, Kamura T. Pilot study evaluating the efficacy and toxicity of irinotecan plus oral etoposide for platinum- and taxane-resistant epithelial ovarian cancer. *Gynecol Oncol* 2007;106: 342-347.
 8. ○Sugiyama T, Fujiwara K. Clear cell carcinoma of the ovary. *ASCO educational book* 2007, p313-326.
 9. ○Fujiwara K, Sugiyama T, Aotani E, Kigawa J, Kuzuya K, Saji F, Ochiai K, Noda K. Pattern of case study for treatment of ovarian cancer patients among Japanese gynecologists. A Japanese Gynecologic Oncology Group (JGOG) study. 42th American Society of Clinical Oncology. Atlanta, USA, 2006/6
 10. ○Sugiyama T. ASCO educational session 「Clear cell carcinoma of the Ovary」 43th American Society of Clinical Oncology. Chicago, USA, 2007/6
- (分担研究者: 竹原和宏)
1. 竹原和宏、川上洋介、秋本由美子、花岡美生、新甲さなえ、水之江知哉、佐治文隆: Bulky 子宮頸癌に対する CPT-11 + MMC を用いた Neoadjuvant Chemotherapy の検討. '06 CPT-11 Update シナジー。
 2. 山本弥寿子、竹原和宏、川上洋介、永田由美子、花岡美生、熊谷正俊、新甲さなえ、水之江知哉、藤井恒夫、佐治文隆: 進行卵巣癌における初回手術、術後化学療法に関する検討. 日本婦人科腫瘍学会雑誌 第25巻 第1号 p50-56, 2007.

3. 藤本幸子、竹原和宏、川上洋介、秋本由美子、花岡美生、熊谷正俊、新甲さなえ、水之江知哉、佐治文隆：術後に重複卵巣癌が発見された若年者の子宮体癌の1例。日本婦人科腫瘍学会雑誌 第25巻 第2号 p117-121, 2007.
 4. 佐治文隆、水之江知哉、新甲さなえ、竹原和宏、熊谷正俊、川上洋介、花岡美生、永田由美子：子宮頸部腫瘍に対する妊孕性温存手術。産婦人科治療 vol.94 no.3 p261-266, 2007.
 5. 熊谷正俊、秋本由美子、花岡美生、川上洋介、竹原和宏、新甲さなえ、水之江知哉、谷山清己、佐治文隆：セルトリ・乾湿細胞腫瘍（低分化型）の1例。日本婦人科腫瘍学会雑誌 第25巻 第3号 p296-301, 2007.
 6. 竹原和宏、山本弥寿子、川上洋介、秋本由美子、花岡美生、熊谷正俊、新甲さなえ、水之江知哉、藤井恒夫、佐治文隆：当院における進行卵巣癌の治療成績・TC療法とCAP療法の後方視的検討。癌の臨床 vol.53 no.4 p255-258, 2007.
 7. 竹原和宏、川上洋介、熊谷正俊、新甲さなえ、藤本貴美子、戸田 環、倉岡和矢、谷山清己：子宮頸部原発リンパ上皮腫様癌の1例。日本臨床細胞学会誌(印刷中)
- (分担研究者：日浦昌道)
1. 野河孝充，大亀真一，田中教文，大下孝史，松元 隆，横山 隆，日浦昌道：腫瘍術後リンパ嚢腫に対する積極的切開ドレナージの有効性の検討；産婦人科の実際 55(4)：705-709, 2006.
 2. 大下孝史，日浦昌道：特集 子宮体癌治療の最新のトピックス 子宮体癌の手術療法；産婦人科の実際 55(5)：775-782, 2006.
 3. 大亀真一，大下孝史，野河孝充，日浦昌道：若年子宮体癌における卵巣温存の可能性に関する検討；産婦人科の実際 55(5)：869-875, 2006.
 4. 大下孝史，松元 隆，日浦昌道：婦人科領域のがん治療，検診に関する展望について ①子宮体癌の手術療法；愛媛県産婦人科医会報 42：9-16, 2006.
 5. 松元 隆，大下孝史，日浦昌道：婦人科領域のがん治療，検診に関する展望について ②子宮がん検診の現状と問題点；愛媛県産婦人科医会報 42：17-20, 2006.
 6. 日浦昌道，大下孝史：子宮鏡検査，子宮腫瘍病理アトラス(石倉 浩，本山悌一，守谷卓也，手島伸一編集，Steven G Silverberg 編集協力) 文光堂 pp83-87, 2007.
 7. 松元 隆，日浦昌道：2.疫学 1) 罹患率と死亡率の推移—国際比較，リスクファクターを含めて，よくわかる卵巣癌のすべて(安田 允編集)．永井書店 pp11-16, 2007.
 8. 日浦昌道，松元 隆，野河孝充：婦人科手術と QOL 若年子宮体癌の子宮温存療法。産婦人科治療 94：3, 273-279, 2007
 9. 野河孝充，日浦昌道：広汎子宮全摘出時の膀胱・直腸腹膜による膣円蓋形成の試み。産婦人科手術 18：49-52, 2007.
 10. 日浦昌道，横山 隆，白山裕子，ウロブレスキ順子，松元 隆，野河孝充：特集 37号 産婦人科診療 Data Book 子宮体癌 II—IV期。産婦人科の実際 56(11)：1743-1747, 2007.